

# 川徳百貨店 環境報告書 2014



## < CONTENTS >

- P1……………環境方針と会社概要
- P2……………環境保全活動の振り返り
- P3……………事業活動と環境影響
- P4……………環境目的及び目標の達成状況
- P5……………環境配慮商品の提案
- P6……………クールビズ・ウォームビズの提案
- P7……………エコ包装の推進
- P8~9……………省エネ・CO<sub>2</sub>削減の取り組み
- P10~11……………廃棄物削減と3R推進の取り組み
- P12……………“お客様とともに”環境活動・社会貢献・復興支援
- P13……………全従業員参加型の取り組み
- P14……………環境教育・内部監査・外部審査
- P15……………環境美化運動・内部コミュニケーション
- P16……………リスク管理・外部コミュニケーション
- P17……………環境事業所の認定・外部コンテストへの参加

# 環境方針と会社概要

## \*\*\*\*\*環境方針\*\*\*\*\*

### ◇基本理念

川徳は、「奉仕こそわがつとめ」という社是のもと、常に新しい価値の提案、高質なサービスの提供を目指し、お客様にとって最良の店づくりを通じ、地域、社会へ貢献することが私たちの役割だと考えています。

また川徳は、事業活動のあり方を地球環境や地域環境の視点から見直し、「快適な環境を考える百貨店」として環境保全活動に積極的に取り組み、更なる改善を推し進めます。

### ◇行動指針

1. 当社の事業活動、商品及びサービスによる環境影響に対して適切に対応するために、環境目的・目標を設定して達成状況のチェックと定期的なレビューを行い、環境保全活動の継続的な改善、汚染の予防をはかります。
2. 適正包装、省エネ、省資源、廃棄物の削減とリサイクルの向上、環境に配慮した商品の提供、グリーン購入を推進します。
3. 環境に関連する法規制、地方条例、当社が同意した業界の自主的行動計画などを遵守し、適切な環境管理を行います。
4. 従業員一人ひとりの環境意識の向上をはかり、自らが行動を起こす人材の育成に努めます。
5. 環境方針は、当社で働く、又は当社のために働く全ての人に周知させるとともに、社外にも公開します。

### ◆ 会社概要

- \*会社名 株式会社 川徳
- \*創業 慶応 2年（1866年）
- \*設立 昭和 27年（1952年）
- \*代表者 代表取締役社長 川村宗生
- \*事業内容 百貨店業
- \*資本金 1億円
- \*売上高 235億円（平成 25年度）
- \*従業員数 493名（平成 26年 4月現在）
- \*事業所
  - ・パルクアベニュー・カトリク /盛岡市菜園 1-10-1
  - ・アネックスカトリク /盛岡市緑が丘 4-1-50
  - ・Cube-II /盛岡市菜園 1-8-15
  - ・外商ビル /盛岡市菜園 1-8-21
  - ・カトリク宮古 /宮古市大通 4-5-9
  - ・パルクアウトレット /盛岡市菜園 2-2-2
  - ・川徳商品センター /紫波郡矢巾町流通センター南 2-4-19

### ◆ ISO14001 認証取得

- 認証取得日 : 2003年 6月 27日
- 登録更新日 : 2012年 6月 27日
- 登録証番号 : JQA-EM3255
- 審査登録機関 : JQA（一般財団法人 日本品質保証機構）
- 登録範囲 : 百貨店における活動全般



JQA-EM3255

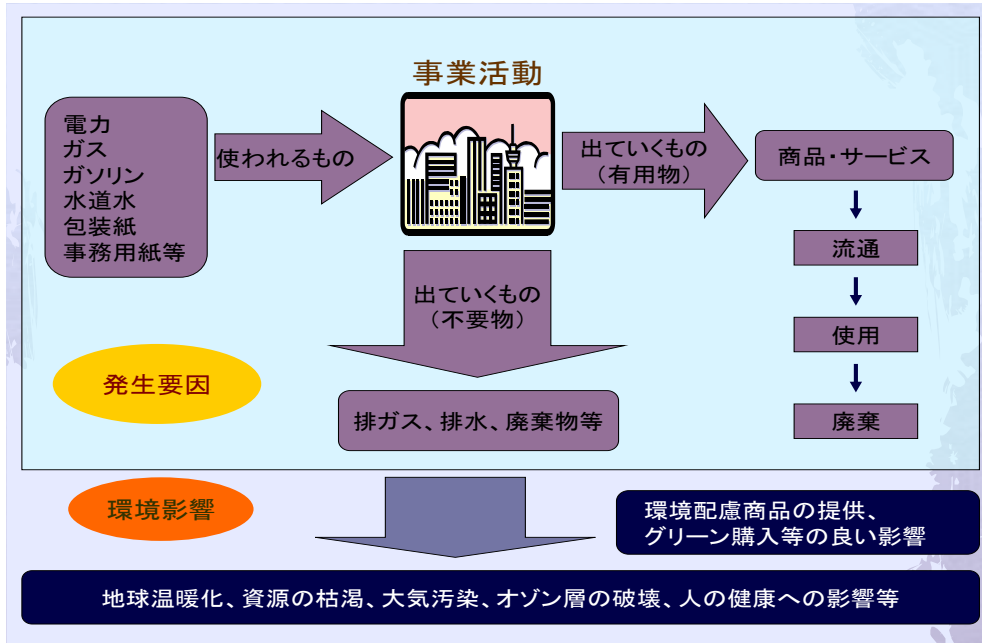
## 環境保全活動の振り返り

年代	主な環境活動
1991年(平成3年)	・簡易包装シールで「ノー包装」を推進
1992年(平成4年)	・紙袋に再生紙使用 ・中元・歳暮カタログやチラシ等で簡易包装のPRを実施
1994年(平成6年)	・簡易包装機を商品センターに導入
1999年(平成11年)	・検品・納品代行による物流システム導入 ・ハンガーリサイクル開始
2000年(平成12年)	・社用車にハイブリットカー1台を導入 ・新女子制服(冬服)に再生ペット素材を使用
2001年(平成13年)	・オリジナルエコバッグ「アースシンフォニー」を発売 ・広告用印刷紙に再生紙とSOY(大豆)インキ使用 ・用度仕入において再生製品の文房具類を拡大
2002年(平成14年)	・「アースシンフォニー」(地球との調和)運動を実施 ・環境方針制定
2003年(平成15年)	・国際規格ISO14001認証取得 ・「エコハンドブック」第1版を発行、全従業員に配付 ・環境配慮商品「カワトク・エコライン」の販売開始 ・環境Navi(廃棄物計量管理システム)導入 ・食品階にて資源ごみの店頭回収を開始 ・魚腸骨、割り箸、廃プラハンガーなどリサイクル品目拡大
2005年(平成17年)	・買物袋、包装紙の店頭回収実施 ・ISO14001の2004年度版移行に伴い、環境マネジメントシステムを再構築
2006年(平成18年)	・パルクアベニュー・カワトクにBEMS(ビルエネルギー管理システム)導入 ・「エコショップいわて」の事業所として認定 ・「いわて地球環境にやさしい事業所」として4つ星認定 ・機密文書溶解処理リサイクル実施とともに、リサイクル可能型新シュレッダーを導入
2007年(平成19年)	・環境報告書の発行、公開 ・第1回地域とはじめる環境報告会を開催
2008年(平成20年)	・オリジナル新エコバッグ販売 ・LED等の省エネ効果の高い照明への切替え促進(毎年継続して計画実施) ・「減クルマ」チャレンジウィークに参加(岩手県公共交通利用推進協議会主催)
2009年(平成21年)	・ポリオワクチンを寄付するためのペットボトルキャップ回収実施 ・アネックスカワトクで使用済蛍光灯の店頭回収開始 ・紳士スーツ、靴の引取りキャンペーンを実施 ・第2回地域とはじめる環境報告会を開催
2010年(平成22年)	・パルクアベニュー・カワトクの空調機を高効率ヒートポンプチラーに切替え ・環境月間に社員参加の取り組み「私のエコな約束」自己宣言を実施 ・卵パックの店頭回収開始とともに、リサイクルコーナーに店頭回収実績公表 ・包装紙、買物袋などに植物油(ベジタブルインキ)を使用
2011年(平成23年)	・東日本大震災発生以後、店内照明の間引き実施 ・第3回地域とはじめる環境報告会を開催
2012年(平成24年)	・外部審査により3回目のISO14001認証更新 ・アネックスカワトク食品階の冷蔵ケース設備を全面入替 ・キューブⅡの空調機の全面入替と室外機更新 ・両店で使用済小型家電と、パルクアベニュー・カワトクで使用済蛍光灯の店頭回収開始
2013年(平成25年)	・「エコハンドブック」第9版の発行 ・従業員中途採用者の入店者研修に環境教育のスケジュール化 ・社用車に電気自動車1台、小型電気自動車2台導入 ・外部のエコドライブ講習会にJAF認定エコアドバイザーを講師として派遣 ・アネックスカワトク館内の基本照明である蛍光灯をLED照明に切替え
2014年(平成26年)	・岩手県認定エコスタッフ14名在籍 ・アネックスカワトクの空調機を高効率ヒートポンプチラーに切替え ・環境配慮商品「カワトク・エコライン」をホームページのショッピングサイトにアップ ・温暖化防止いわて県民会議事業者部会の取り組みで、「ECOアクション賞」を受賞 ・震災以降消灯していたネオン広告塔が点灯されたことによりライトダウンキャンペーンに参加 ・パルクアベニュー・カワトク館内の基本照明である蛍光灯をLED照明に切替え

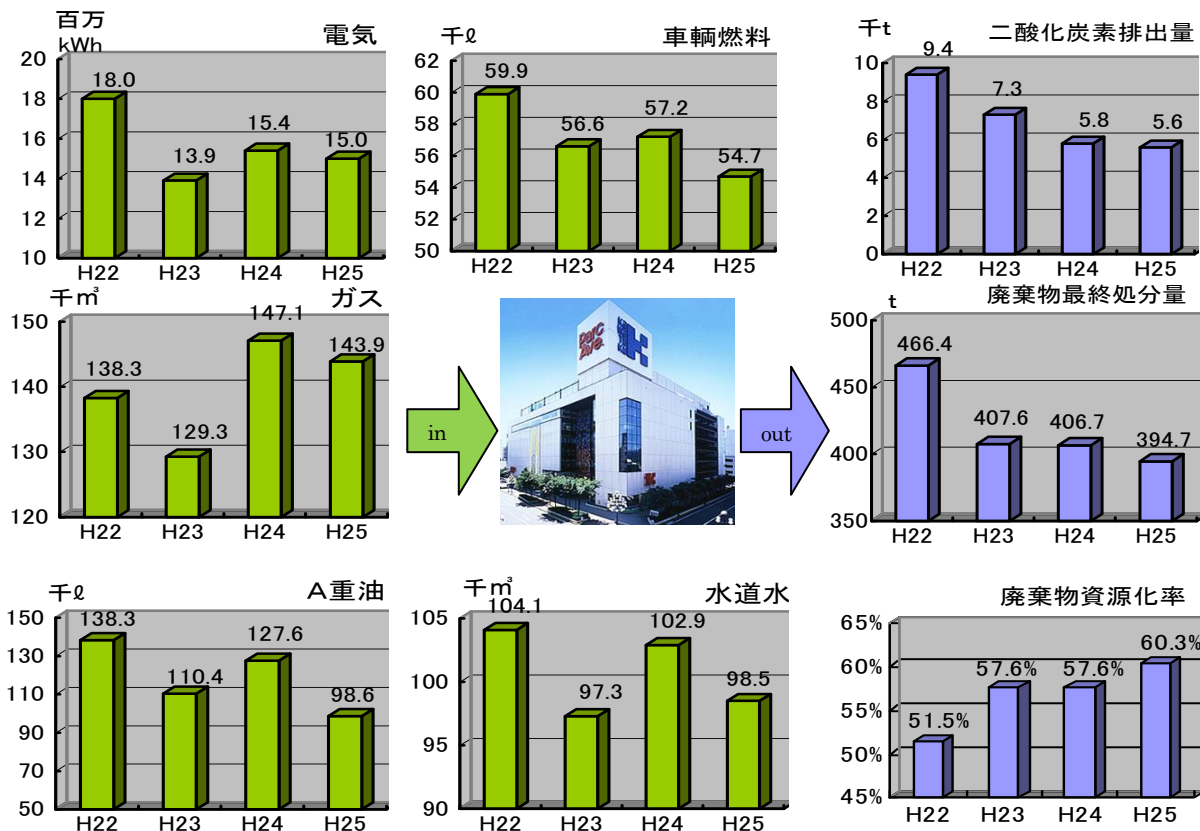
# 事業活動と環境影響

## ●事業活動による環境影響

私たちは百貨店としてお客様の暮らしに役立つことを使命としておりますが、一方では一般家庭とは比べものにならないくらい多くの資源・エネルギーを消費すると同時に、外に様々な廃棄物や二酸化炭素を排出しています。これらの環境への影響をきちんと把握し、地域社会の一員として責任を果たしながら環境保全活動に取り組んでいます。



## ●主なインプット(資源・エネルギーの使用)とアウトプット (排出物の発生)



※平成 23 年は東日本大震災によりエネルギー使用量や排出物の発生等が抑制された年となりました。



## 環境目的及び目標の達成状況

### ●平成 25 年度の主な目標と結果

環境マネジメントシステムに基づいた具体的な取り組み（環境目的）と、年度ごとの環境目標を策定しておりますが、平成 25 年度の目標達成に向けて環境活動に取り組んだ結果の達成状況は、以下のとおりです。（対象期間は平成 25 年 3 月から平成 26 年 2 月）

項目	環境目的	H25 年度目標	H25 年度実績	評価	前年比	基準年比
省エネルギー・省資源	CO <sub>2</sub> 排出量を基準年 H14 年比で 45.0%の削減	6,000 t	5,631.9 t	○	96.3%	51.7%
	容器包装使用量を払出実績で前年目標値を維持（売上高1万円当たりの重量）	47.5g/万円	45.5g/万円	○	102.4%	99.3%
リサイクル向上・廃棄物削減	廃棄物最終処分量を基準年 H15 年比で 45.3%の削減	415 t	394.7 t	○	97.0%	52.0%
	廃棄物資源化率を基準年 H15 年比で 13.6%の向上	57.5%	60.3%	○	104.7%	136.8%
環境配慮 商品等の	エコライン（環境配慮商品）等の販売点数を基準年 H18 年比で 90%の拡大	45,876 点	47,440 点	○	100.7%	196.5%

### ●平成 26 年度の主な目標

平成 26 年度は、新たに買い物袋使用量と食品ごみ排出量の部門別目標設定を行い、様々な環境活動に取り組んでいます。（上期対象期間は平成 26 年 3 月から 8 月）

項目	環境目的	H26 年上期目標	H26 年上期実績	上期評価	上期前年比
省エネルギー・省資源	CO <sub>2</sub> 排出量を基準年 H14 年比で 49.5%の削減	2,854 t	2,678.0 t	○	92.1%
	買い物袋使用量の払出重量を基準年 H24 年比で 0.3%の削減	30 t	26.9 t	○	88.8%
リサイクル向上・廃棄物削減	廃棄物最終処分量を基準年 H15 年比で 49.3%の削減	203 t	192.4 t	○	92.5%
	食品ごみ排出量を基準年 H24 年比で 5.0%の削減	86 t	81.5 t	○	90.3%
	廃棄物資源化率を基準年 H15 年比で 17.1%の向上	61.0%	58.2%	×	99.5%
環境配慮 商品等の	エコライン（環境配慮商品）等の販売点数を基準年 H18 年比で 91%の拡大	22,866 点	21,844 点	×	94.4%

# 環境配慮商品の提案

## ●人と地球にやさしい環境配慮商品 “カワトク・エコライン”

百貨店としての環境活動、それは環境にやさしく、人にもやさしい良いものを厳選して、お客様にご提案することと考えております。カワトク独自の選定基準に基づいて商品開発を行い、エコライン選定委員会において認定された、自信を持ってお勧めできる商品を厳選してご提案しています。

カワトクならではの環境配慮商品 “カワトク・エコライン” は、ホームページでも季節ごとにご紹介しており、ショッピングサイトでもお求めいただけます。



〈ヒカリ〉  
有機トマトケチャップ



〈四万十セラードコーヒー〉  
土佐備長炭焙煎 有機栽培珈琲



〈暮坪米〉有機 JAS 認定  
有機栽培米ひとめぼれ



食品フロア  
環境月間のエコラインフェア



家庭用品フロア  
環境月間のエコラインフェア



紳士服用品フロア  
クールビズと環境月間のエコラインフェア

**カワトク・エコライン**  
人と地球にやさしい環境配慮商品

マークがついているものは  
カワトクショッピングサイトでご購入できます。

2014 秋

新しくエコラインに  
認定された商品です。

**高品質な  
フェアトレードチョコレート**

環境にやさしい  
エコな傘を開発

### “カワトク・エコライン” ってどんな商品？

川越では「人と地球の優しさを選定基準に「カワトク・エコライン」を展開しています。以下のエコライン基準を1つ以上満たしていることが、エコライン商品の条件となります。

エコライン基準	
<b>工程低負荷</b> 原材料や生産工程が低負荷(低負荷の原料、添加物の抑制・無添加、化学肥料の省略、有機肥料の使用、自然エネルギーの利用等)	<b>環境保全</b> 環境保全を促すもの(水質・大気・土壌保全の効果があつるもの、生産廃棄物削減を図っているもの)
<b>再生素材</b> 再生素材の使用(再生素材混入率50%以上、再生アルミ60%以上、再生プラスチック40%以上、再生素材混入率50%以上の繊維製品等)	<b>環境ラベル</b> 環境ラベル等の表示があるもの(エコマーク、有機JASマークなどの環境ラベルの表示やカーボンフットプリントなど環境負荷に関する表示等)
<b>再生可能</b> 再生可能な商品(リサイクル可能な素材や素材を使用しているもの、適合素材から単一素材へ変更したものでリサイクルを促すもの等)	<b>環境配慮</b> 環境配慮設計である(軽微な手帳やコストを考慮した軽微な設計、環境負荷の少ない材料や材料使用量の削減などを考慮したデザイン)
<b>省資源 省エネ</b> 省資源・省エネ製品(包装資材、簡易包装化、パッケージに素材や包装材料使用、流通段階で省エネ効果をもつもの、繰り返し使用できるもの)	<b>保全貢献</b> 商品購入することで環境保全に資するもの(森林保護目的の寄付金付商品や、カーボンオフセット付商品等)

“カワトク・エコライン” ホームページの一部



## クールビズ・ウォームビズの提案

### ●省エネに向けたライフスタイルを提案

各売場や催事スペースでは、省エネに向けたライフスタイルの提案や、「冷房・暖房を消して、デパートに集まろう」のキャッチコピーにより、店内放送等でもクールシェアやウォームシェアを呼びかけました。



カワトク・エコライン商品の  
メンズカジュアルスタイルをクールビズとして提案



吸水速乾・接触冷感・ドライタッチの  
機能性肌着をクールビズとして提案



適穿（テキパキ）ウォーム  
紳士スラックスのあたたかい快適なはき心地を提案



あたたかさをもうひとつ。  
羽織ものをウォームビズプラスワンとして提案

## エコ包装の推進

### ●エコ包装の基本パターンを使い分け

「包み分ける、エコロジー。」をテーマに、用途に合わせたエコ包装やエコテープの使い分けをして、包装紙や買い物袋などの削減に取り組んでいます。ギフトや中元・歳暮用品では、8割以上のお客様に簡易包装のご協力をいただき、先様にお届けされています。



エコ包装の場合はビニール製の「エコエープ」使用

### ●「買い物袋ひとまとめ」の一声励行

お買い物袋をお持ちのお客様には、「今お持ちの買い物袋にご一緒させていただいてよろしいでしょうか?」、「大きめの買い物袋にひとまとめいたしませんでしょうか?」と、ひとまとめのご協力を願っています。

### ●オリジナルエコバッグの販売

カワトクオリジナルエコバッグは、各階で販売しております。また、日本百貨店協会オリジナル保冷バッグやおしゃれなエコバッグも販売しており、マイバッグご利用のお勧めにより、買い物袋や包装紙削減に取り組んでいます。



カワトクオリジナルエコバッグ  
(サイズ: 35 cm × 35 cm × 13.5 cm)  
税込 700 円



日本百貨店協会オリジナルのスマート・クール・バッグ (内側アルミ蒸着保冷タイプ)  
(サイズ: 38 cm × 52 cm × 12 cm)  
税込 400 円





## 省エネ・CO<sub>2</sub>削減の取り組み

### ●空調設備の更新による省エネ化

平成 22 年 1 月にパークアベニュー・カワトク店、平成 26 年 1 月にはアネックスカワトク店の空調設備を、「A 重油焚き冷温水発生器」から電力による「高効率空冷式ヒートポンプチラー」に更新しました。

パークアベニュー・カワトクは平成 18 年に「BEMS」(ビルエネルギーマネジメントシステム)を導入、アネックスカワトクは空調機入替と同時に「デマンド制御」を採用し、空調機の最適運転を行うことで、省エネをはかっています。



パークアベニュー・カワトク



アネックスカワトク

### ●電力のピークシフトによる平準化

開店と同時に空調機や照明等のスイッチを入れると、間もなく最大電力に到達してしまうことから、チラーの起動時間を開店の 1~2 時間前に行うことで、最大電力の抑制をはかりました。

夏季の一番気温が高くなる時間帯には、チラーに散水することで、電力負荷の抑制が可能となりました。また冬季のロードヒーティングは、通電しても約 5 時間は効果が出ないことから、稼働時間を深夜帯に移行しました。このような電力のピークシフトにより、契約電力が実運用電力より大きめとなったため、契約電力を 3,700kW から 3,200kW に低減した結果、経費の抑制が実現しました。

### ●省エネパトロールの実施

夏季と冬季には、店内温度緩和の取り組みとして、事務局と施設管理担当者が各フロアを巡回し、店内温度や湿度の実測による検証や、売場担当者からお客様のヒアリングを行うと同時に、事務局を含め売場では毎日 2 回の室温計測により、売場環境の快適性の維持と省エネに努めています。



2 台の室温計測器で温度と湿度をチェック



省エネパトロール



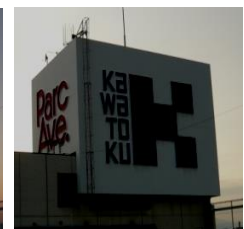
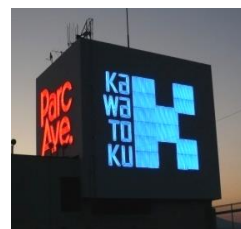
温度計と室温管理表



### ●「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に参加

東日本大震災以降、常時消灯していた屋上のネオン広告塔は、平成 25 年 12 月から省エネに配慮しつつ、点灯を再開したことで、今年は全国的に呼び掛けている「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に 4 回参加しました。

- ・ 6 月 21 日 (土) 〈夏至の日〉
- ・ 7 月 7 日 (月) 〈クールアース・デー〉
- ・ 8 月 2 日 (土)・3 日 (日) 〈伝統的七夕=旧暦の七夕〉



日没後のライトダウン前(左)と後(右)

## 省エネ・CO<sub>2</sub>削減の取り組み

### ●基本照明・スポット照明のLED化

平成20年より計画的にLED化に取り組んでいます。1階フロアのシャンデリア4基の電球全てのLED化や、事務館の蛍光灯、非常口の案内灯、売場のスポット照明等も順次LED化が進んでおり、商品のVP効果アップにつながりました。

平成25年度は、アネックスカワトクが売場の基本照明全てをLED化に、パルクアベニュー・カワトクは、館内の基本照明、40W8灯タイプの蛍光灯252台のLED化を実施しました。実施するにあたり、低価格で、作業工程が短く、天井の改修をしないことで廃材を極力減らし、また、交換後の売場イメージを損なうことのないように、機器及び作業の安全性の確認や照度等の仕上がりを確認しながら切替えを行いました。



1階フロアのシャンデリア



事務館蛍光灯LED化の作業中



非常口の案内灯



5階家庭用品・特選洋食器やエレベーターホール



館内の基本照明 (40W8灯タイプ)

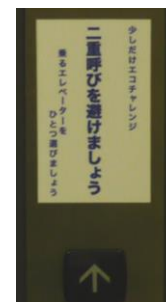
### ●エレベーターの消費電力削減

30年以上前に設置されたエレベーターの駆動部を、平成24年度から毎年1基ずつ最新のものに更新したことで、動力の伝達効率がアップし、消費電力は51.5%削減することが出来ました。

設備以外の部分では、事務館のエレベーターの1基休止や、本館社員用エレベーターの二重呼びも禁止して、社員一人ひとりの行動で可能な省エネ活動を実践しています。



事務館エレベーター1基休止



社員用エレベーター二重呼び禁止

### ●エコドライブの取り組み

営業車両は順次燃費効率の良い車種に切替え、現在50台中、EV車3台(単座2台含む)、HV車20台、軽の低燃費車10台となっています。カワトクスーパーシャトルバスは、平成26年7月にHV車になりました。

エコドライブ講習会では、弊社のJAF認定エコアドバイザーと物流担当者が講師となって路上での実車体験講習を行い、エコドライブのコツを指導しています。外商部でも独自にエコドライブ講習会を行い、安全運転やエコドライブによる燃費向上、さらにはCO<sub>2</sub>削減に取り組まれました。



平成25年導入のEV車



新型スーパーシャトルバス



実車体験講習



外商部のエコドライブ講習会



## 廃棄物削減と3R推進の取り組み

### ●3R推進パトロールの実施

各フロアの廃棄物集積場を巡回する3R推進パトロールは、年間計画に組み入れて実施しています。「分ければ資源」、「棄てればごみ」と言われているように、店舗営業に伴い発生する“ごみ”は、大半のものは分別することで資源となり再利用することが出来るため、パトロールの都度、部門責任者に現場写真を提示して改善指導を行っています。



可燃ごみの中に紙資源ごみ、  
プラ製・ビニール製資源ごみあり



可燃ごみの中に薄葉紙や箱類の紙資源・  
プラ製資源ごみ、ペットボトルあり



可燃ごみの中に厚紙やチラシ類の  
紙資源ごみ、ビニール袋等があり

### ●リユース（再利用）の拡大

段ボールは再製品化されますが、一方ではリユース出来るということで折りたたみコンテナ納品が徐々に拡大しています。食品当日お届け便の宅配にも利用しています。

また、百貨店統一ハンガーや流通循環ハンガー(エコハン君)により納品された場合は、売場で店頭ハンガーに掛け替えた後、専用のハンガー回収袋に入れて店舗の指定場所に保管し、そこから全国の回収センターに戻り、リユースする仕組みになっています。

それ以外の使用済プラスチックハンガーは、手に取りやすいように2~3本を1セットに輪ゴム止めを行い、お客様にご提供しています。



折りたたみコンテナによる納品



百貨店統一ハンガーや  
流通循環ハンガーの回収袋



お客様にご提供する  
使用済のプラスチックハンガー

### ●機密文書の溶解リサイクル

平成18年から毎年環境月間に行っている機密文書溶解リサイクルは、各部門から排出された1年分の機密書類と使用済の友の会お買物券や商品券等を、トラックのチャーター便で岩手県内の製紙工場に直接持ち込んで処理を依頼し、段ボール等に再製品化されています。社員が搬送監視、そして工場内では社員が立会いの下溶解処理が行われ、溶解処理証明書が発行されます。



売場から持ち込まれた書類の中に禁忌品が混入していないか  
チェックしてからトラックに積荷される



製紙工場に到着後、トラックから書類をショベルカーに移し、  
ショベルカーが溶解釜まで移動して投入、攪拌される



## 廃棄物削減と3R推進の取り組み

### ●環境Navi（廃棄物計量管理システム）による実績管理

パルクアベニュー・カワトク地下2階、アネックスカワトク1階の廃棄物処理場では、日々発生する廃棄物を品目別に、かつ部門別に、食品ごみはショップ別に計量を行っています。どんな種類のごみが、どの部門、どのショップから排出されているのかを正確にデータ把握を行い、ごみ削減の目標管理に役立てています。主に売場から出るごみの分別は、各フロアの集積場に貼ってある「カワトクごみ 分別スタイル」のポスターをもとに、それぞれの部門によって排出場所の工夫をしながら、排出物の資源化に努めています。



（計量者：営業部門は廃棄物処理委託業者が代行。ただし食品ごみは各ショップの排出者。事務部門等も排出者。）



廃棄物計量機

工夫を凝らしたごみの排出場所

「カワトクごみ 分別スタイル」のポスター

### ●食品ごみの削減の施策

平成26年度の新たな取り組みとして、食品ごみ排出量を平成24年の基準年に対して5.0%の削減を目標としました。その目標をクリアするための施策として、年度初めに行った全従業員対象の環境集合教育では、“食品ごみの水切り”をスライドで具体的に示して、周知徹底をはかっています。

また惣菜ショップでは、揚げカスの処理は水を吸わせ、冷ましてから食品ごみとして排出していたため、重量が嵩み食品ごみが減量しませんでした。新たに揚げカス処理機を導入したことで揚げカスがさらさらとなり、食品ごみの減量につながりました。



水を吸わせて冷ました揚げカスをザルに入れ（左）、徹底的に手で絞るように水切りを行っている（右）様子

熱くなっている揚げカスを投入口（左）に入れて、油と揚げカスを遠心分離、さらさらの揚げカスは廃棄、油は再利用

### ●お客様用リサイクルコーナーを設置

各店舗にはリサイクルコーナーを設置しており、牛乳パック、食品トレイ、ペットボトル、買物紙袋・包装紙、ポリ・ビニール・レジ袋、卵パック、使用済乾電池、使用済蛍光管、使用済小型家電の9品目他、ペットボトルキャップも回収しています。



## “お客様とともに” 環境活動・社会貢献・復興支援

### ●衣料品の引き取りキャンペーン

お取引先様との共同企画により、「衣料品や紳士スーツの引き取りキャンペーン」を実施しています。「ワコール・ブラ・リサイクル」は、女性にしか出来ない地球にやさしいエコ活動を提案しています。「紳士・婦人靴の引き取りキャンペーン」も行っており、全てリユースやリサイクル処理を行っています。



オンワード・  
グリーン・キャンペーン



紳士スーツ  
引き取りセール



ワコール・  
ブラ・リサイクル



紳士・婦人靴の引き取りキャンペーン



### ●エコキャップで社会貢献

平成 21 年に社内運動からスタートし、翌年の 4 月からリサイクルコーナーでも店頭回収を始めた「ペットボトルキャップを集め、世界の子どもにワクチンを届けよう!!」キャンペーンは、今年で 6 年目になりました。平成 26 年 10 月現在で、ポリオワクチンの寄付は 1,000 人分を超え、7 t の CO<sub>2</sub> 削減効果となりました。



エコキャップキャンペーンの社内ポスター



リサイクルコーナーの  
ペットボトルキャップ  
回収 BOX



店内やリサイクルコーナーから  
集められたペットボトルキャップ

### ●復興支援イベント

「ニットでハートをつなごう展」は 3 月 8 日から 11 日まで、7 階ロイヤルルームにおいて開催しました。来場者到大変好評で、新作やキャラクターもの等、趣向を凝らした作品が出品されました。作品の一つひとつには制作者の名前とメッセージが付いています。

「第 3 回岩手発手しごと絆フェア」は 7 月 24 日から 29 日まで、7 階催事場において開催しました。この催しは、東京大学被災地支援ネットワークの呼び掛けに盛岡情報ビジネス専門学校が全面協力して開催したのですが、今年も 13 団体が出店しました。開催初日から岩手のゆるキャラが登場し、土・日には体験ワークショップも開かれました。被災地の方の手作り品を購入することで継続的なご支援をお願いしました。



大人気の陸前高田のゆるキャラ  
“たかたのゆめちゃん”



「ハートニットプロジェクト」の  
マスコット“ニットこちゃん”も販売



莓をイメージしたメッセージ付ニット帽



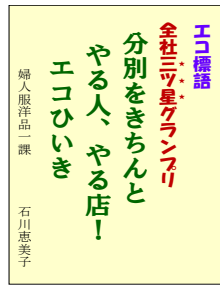
## 全従業員参加型の取り組み

### ● 「エコ標語」の募集

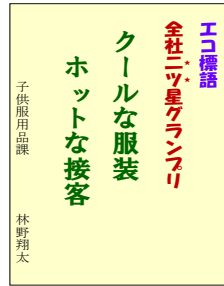
環境月間の企画として実施している弊社の環境キャンペーンは、今年で5年目となり、昨年に続き全従業員を対象とした「エコ標語」を募集しました。『私がこの夏取り組む省エネ活動』をテーマにエコ標語を作り、エコ標語カードに記入されたものを各部門のバックヤードに貼り出しました。各部門はその中から部門グランプリを決定して、全社グランプリの選考に応募するという流れの中で、全社グランプリが決定し、全体朝礼においてグランプリ作品の紹介と表彰を行いました。



各部門のバックヤードに掲示された作品



三つ星グランプリ作品



二つ星グランプリ作品



グランプリ作品の表彰式

### ● 「節電によるCO<sub>2</sub>ダイエット」の取り組み

今年は環境月間のもう1つの企画として、「節電によるCO<sub>2</sub>ダイエット」を実施しましたが、これは“我が家の節電”をテーマに6～8月の3ヶ月間の中でそれぞれ1ヶ月ごとの電気使用量のお知らせ(検針票)から前年と比較した節電量を把握し、節電出来た家庭が専用応募用紙に記入して応募するというものです。今年の夏は高温や多照・多湿であったことから、家庭での節電は非常に大変な取り組みとなりましたが、その中でもCO<sub>2</sub>ダイエットに成功し、少なからず地球の温室効果ガス抑制に貢献することができました。個人のダイエット結果に対し、三つ星・二つ星・一つ星グランプリのほかに、ダイエット賞の4種類を表彰対象として、各部門長朝礼で表彰を行いました。

< 「節電によるCO<sub>2</sub>ダイエット」の結果 >

表彰	CO <sub>2</sub> ダイエット	ダイエット月
★★★グランプリ	129.4kg	6・7月
★★グランプリ &パーフェクト賞	47.6kg	6・7・8月
★★グランプリ	45.4kg	6月
★グランプリ	35.8kg	6・7月
☆ダイエット賞(12名)	134.4kg	6・7・8月

☺ ダイエット成功者の秘策を聞くと

- ・休日は涼しい所へ外出。⇒クールシェア！
- ・こまめにコンセントを抜いた。
- ・テレビ見る時間を少なくして、早寝、早起き。
- ・日中は窓を開け、自然の風で過ごす。
- ・エアコンは就寝1時間のみタイマーセットした。
- ・炊飯器はタイマーセットしない。
- ・契約電力を下げた。・・・など、特別なことではなく、誰でもできることでした。

### ● 「減クルマ」チャレンジウィークへの参加

今年で7年目となる「減クルマ」チャレンジウィーク（主催：岩手県公共交通利用推進協議会）への参加は、9月29日から10月10日までの12日間行われ、昨年同様、今年もエコ通勤やエコドライブ、カーセーブなど、できる範囲でチャレンジすることと全員参加を目標に参加しました。

期間中に参加者カードを提示すると優遇サービスが受けられる協賛店には、弊社のテナント11店舗も協賛店として参加しました。

<平成26年度「減クルマ」チャレンジウィークの結果>

	延人数	延回数	抑制距離	CO <sub>2</sub> 削減量
エコ通勤	161人	1,215回	9,858km	2.38t
カーセーブ (仕事で)	63人	246回	—	—
エコムーブ (私生活で)	213人	259回	3,839km	0.92t
エコドライブ	255人	1,838回	—	—
合計	692人	3,558回	13,697km	3.28t
従前からクルマ抑制に取り組んでいる人				228人
今回新たにクルマ抑制に取り組んだ人				102人

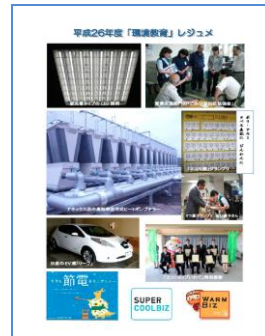


## 環境教育・内部監査・外部審査

### ●全従業員を対象に環境集合教育の実施

平成14年に始まった全従業員対象の環境集合教育は、毎年計画的に実施しており、1回30分コースの全32回、事務局が各所に出向いて教育を実施しています。主な内容は、スライドにより昨年度の環境活動状況の振り返りと今年度の環境活動方針、及び毎年5月に行われる外部審査への心構えなどで、派遣社員も含めて1,600名を超える従業員が受講しました。

その後各部門では全社的な環境活動方針に従い、各部門の活動方針や部門独自の取り組み、目的・目標を含めた部門教育が行われ、従業員の意識向上をはかっています。



平成26年度の「環境教育」レジュメ (全4ページ)



スライドを交えた環境集合教育

### ●“力量”を向上させる環境教育の強化

今年度の環境活動方針の活動強化ポイントとして、重点管理項目に関わる従事者を対象にした力量教育（知識、技能又は能力）の強化を挙げています。これはJQAの定期審査の審査所見に「改善の機会」として「内容に幅を持たせた力量教育の実施」が望ましいとの指摘をいただいたことによるものです。年間2回、各部門の環境マネジメントプログラムに力量教育を組み入れて、実施記録も残すよう取り組んでいます。



リビング用品・呉服部の環境委員リーダー山本さん

毎月テーマを変えて開店前の20分間を利用しての勉強会を開催している、リビング用品・呉服部

### ●中途採用者への環境教育実施

毎月中途採用者対象の入店者フォローアップ研修の中に、弊社の環境活動についての30分間の研修がプログラミングされており、エコハンドブック（全20頁）をもとに環境方針や環境活動の歩みの他、省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減、廃棄物削減の取り組み等の内容で実施しています。



### ●内部環境監査とマネジメントレビュー

毎年1月には、関連会社を含む22部門全ての環境マネジメントプログラムの達成状況や、有効性のチェック等を目的に、内部環境監査を実施しています。任命された監査員は、公正な監査が行われるよう勉強会を行い、監査に臨みます。監査結果は、マネジメントレビュー（社長による見直し）とともに各部門にフィードバックされて今後の改善、活動につなげています。



人事部とCS推進室の内部監査



社長によるマネジメントレビュー

### ●外部環境審査

5月に行われたJQA（一般社団法人日本品質保証機構）の定期審査は、弊社の環境マネジメントシステムが継続してISO規格の要求事項に適合していることが認められ、無事審査を終了することができました。審査所見の中では、グッドポイント2件、改善につながる助言として「改善の機会」が13件の指摘をいただきましたが、事務局及び当該部門ではこれらを今後のシステムの運用の改善に生かすことにしています。



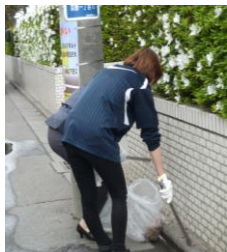
トップマネジメントインタビュー

## 環境美化運動・内部コミュニケーション

### ●店舗外周清掃、中津川河畔及び遊歩道の清掃

平成14年から始めて12年目となる店舗外周清掃は、環境美化運動の一環として環境マネジメントプログラムにも組み込んでおり、4月から11月の8ヶ月間、冬季を除き毎週火曜日に行っています。

また、5月と9月には、店舗外周及び軒下の蜘蛛の巣清掃も実施しています。そして6月の環境月間には、店舗の近くにある中津川河畔と遊歩道のごみ拾いも実施しています。



店舗外周清掃



蜘蛛の巣清掃



中津川河畔及び遊歩道の清掃



### ●屋上緑化の取り組み

パークアベニュー・カワトク屋上の半分には、平成25年から湿生花園を設け、アゼスゲやリンドウの他、サクランボやブルーベリー、姫リンゴなどを植栽していますが、今年は残りの半分のスペースに“屋上にひまわり畑を作り、新たな話題のスポットにしよう”という社内イベントとして、5月27日に社員の手でひまわりの種植えを行いました。

8月になるとまっすぐ大きくなったひまわりが、たくさんの鉢の中から競って咲き誇り、見事に夏の風物詩が出来上がりました。



5月の種植え作業



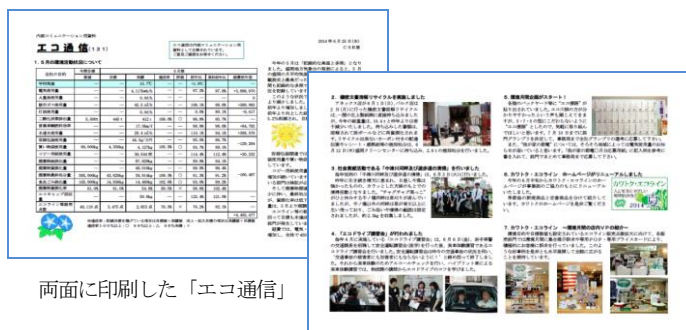
種植えから2ヶ月ちょっとで見事に咲きました

### ●環境管理委員会の定期開催と内部コミュニケーション

毎月開催される環境管理委員会では、事務局より前月の環境活動状況の結果と評価を全部門長に報告しています。また、その結果と今後の活動や環境に関連した最新情報を両面に掲載した「エコ通信」を各部門長に配付し、内部コミュニケーションツールとして、全従業員に回覧しています。



環境管理責任者をはじめ、全部門長が出席する環境管理委員会



両面に印刷した「エコ通信」



## リスク管理・外部コミュニケーション

### ●産業廃棄物処理業者の現地調査

産業廃棄物排出事業者は、産業廃棄物が収集運搬業者及び中間処理業者によって適正に収集処理等が行われたかどうかの状況を確認するために、年1回、現地調査を実施する義務があります。

廃棄物管理者等が、4月24日、弊社のポリ・ビニール・レジ袋やPPバンド、プラスチックハンガー等の最終処理委託業者である、三菱マテリアル株式会社岩手工場（一関市）を訪問して、適正に処理がなされているかの調査を行いました。

調査の結果、弊社から排出されたプラ製廃棄物は中間処委託理業者により破碎され、最終処理委託業者である三菱マテリアル株式会社岩手工場でセメント製造時の焼成工程においては燃料として使用し、燃え殻はセメントの原料として活用されていることが確認できました。



産業廃棄物処理施設の許可証



廃プラスチック類細分化の状況



廃プラスチック類の焼成施設

### ●グリストラップ用油吸着シートの使用義務化

弊社から公共下水道へ排出している排水については、県条例の水質基準チェック項目はクリアしていますが、ノルマルヘキサン抽出物質含有量の濃度については、特に注意を払っています。年2回の業者による清掃実施や対象ショップの定期的な清掃は以前から行っていましたが、主な排出元である店内の飲食テナントや食品加工ショップが、動植物性の油脂類による汚れを軽減することが最優先であることから、グリストラップ専用の油吸着シート使用による吸い取りを義務付け、更なる清掃の徹底により排水の水質浄化に取り組んでいます。



グリストラップ用油吸着シート



油吸着シートを使用している  
7階飲食テナントのグリストラップの状況

### ●3R 推進イベント（外部イベント）

10月の環境にやさしい買い物キャンペーンでは、岩手県といわてNPOフォーラム21が主体となった3R推進イベントとして、岩手県の3R推進キャラクターである「エコロル」が1階正面入り口の店頭公開空地において、エコショップいわての利用促進と、リユース・リデュース・リサイクルのPRを行いました。

また店内では、3R推進のためのイメージソングである「♪エコロル エコロジー」を流して、ご来店のお客様に3R推進のPRを行いました。



岩手県3R推進  
キャラクター「エコロル」



「環境にやさしい買い物  
キャンペーン」ポスター

### ●ホームページ等の活用による情報発信

弊社のホームページでは、環境活動の年次報告である環境報告書や、「カワトク・エコライン（環境配慮商品）」の季節ごとの商品提案、ウォームビズ・クールビズ、そして最新のトピックスをお知らせしています。

また店内では、ポスターやPOP・店内放送等により、情報発信を行っています。





## 環境事業所の認定・外部コンテストへの参加

### ●行政等が認定する環境事業所

環境事業所として認定いただいている5つのうち、「エコショップいわて」と「いわて地球環境にやさしい事業所（4つ星認定）」は、3年に1回の更新により認定されています。更新に向けて、省エネやCO<sub>2</sub>排出削減、あるいはごみ減量や3R推進について、日々のチェックや見直しによりPDCAを回しながら継続的改善に努めています。



内容	認定団体	認定時期	店舗名
盛岡市ごみ減量・リサイクル協力店	盛岡市	平成15年3月18日	パルクアベニュー・カワトク アネックスカワトク
エコショップいわて認定店 (3年毎に更新)	岩手県・盛岡市 いわてNPOフォーラム21	平成18年5月15日	パルクアベニュー・カワトク アネックスカワトク
いわて地球環境にやさしい事業所 4つ星認定店(3年毎に更新)	岩手県	平成18年10月12日	パルクアベニュー・カワトク アネックスカワトク
盛岡市レジ袋使用量削減協力店	盛岡市	平成19年7月17日	パルクアベニュー・カワトク アネックスカワトク
いわて地産地消レストラン 1つ星認定店(1年毎に更新)	岩手地産地消推進会議	平成24年4月1日	北の蕎麦屋カワトク店

※「いわて地産地消レストラン」の認定制度は、全メニューの中で県産品食材の使用割合が条件になっており、北の蕎麦屋カワトク店は、全メニューの6割以上が県産品食材を使用しています。

### ●外部コンテストへの参加

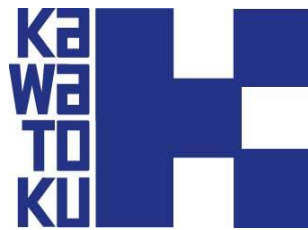
外部の省エネ取り組みコンテスト等に参加し、下記の表彰を受賞しました。これらを励みに更なる省エネに取り組んでいます。

そして今年度は新たに、エネルギー管理優良工場等推薦調書を申請いたしました。管理組織・運営状況や技術者の養成の他、エネルギー使用の合理化に関する成果や実施した措置状況等を書面で申請し、視察も含めた審査に臨みました。



いわて温暖化防止フェア2014でのECOアクション賞の表彰 記念撮影

時期	内容	主催
平成22年3月	第1回CO <sub>2</sub> 削減コンテスト 努力賞	盛岡商工会議所
平成22年7月	第13回蓄熱のつどい 特別感謝状	(財)ヒートポンプ・蓄熱センター
平成22年11月	エコショップいわて認定店優良取組店舗 特別表彰 (平成22年より4年連続特別表彰受賞)	岩手県 (特非)いわてNPOフォーラム21
平成23年3月	第2回CO <sub>2</sub> 削減コンテスト 最優秀賞	盛岡商工会議所
平成25年3月	ecoアクションコンテスト2012 最優秀賞	盛岡商工会議所
平成26年11月	平成25年度 温暖化防止いわて県民会議・事業者部会 「できることからECOアクション！」ECOアクション賞	岩手県 温暖化防止いわて県民会議



<お問い合わせ>

株式会社 川 徳 CSR室

〒020-8655 岩手県盛岡市菜園一丁目 10 番 1 号

電話(019) - 651 - 1111(代表)

URL <http://www.kawatoku.com/>

E-mail : [iso@kawatoku.com](mailto:iso@kawatoku.com)